

平成26年度 第1回 千葉県水産振興審議会概要

1. 日 時 平成27年3月9日（月曜日） 午後1時00分から午後2時20分
2. 場 所 水産会館（千葉市中央区）
3. 出席委員数 8名（佐久間清治委員及び石田義廣委員欠席）
4. 議題
 - （1）会長及び副会長の選任について
 - （2）部会に属すべき委員について
 - （3）各部会における審議状況について
 - （4）漁業就業対策について
 - （5）その他

5. 議事内容

事務局から委員出席者数の報告などがあった。

議題1）会長及び副会長の選任について

委員からの推薦意見があり、会長坂本委員、副会長中村委員が選任された。

議題2）部会に属すべき委員について

部会に属すべき委員として、会長により、栽培漁業・資源管理部会委員として坂本委員・滝口委員・中村委員・柴田委員、生産・販売流通部会として関委員、海面利用調整部会委員として滝口委員が指名された。

議題3）各部会における審議状況について

中村委員が栽培漁業・資源管理部会の審議状況について説明。平成27年1月28日に同部会を開催し、「水産動物の種苗の生産及び放流並びに水産動物の育成に関する基本計画」（第7次栽培漁業基本計画）について協議し、原案のとおり了承された旨の報告があった。

関委員が生産・販売流通部会の審議状況について説明。平成26年11月5日に、水産加工品として「銚子産いわししょうゆ味」及び「九十九里いわし オイルサーディン（新規）」、ふるさと品として「房州和田浦 つち鯨」の3品目を対象に、平成26年度千葉ブランド水産物として認定要件・認定基準に適合するかの審議を行ったところ、いずれも認定が適当であるとの結論に至った旨の報告があった。

滝口委員が海面利用調整部会の審議状況について説明。平成26年6月6日に、「遊漁のまき餌釣りに係る委員会指示について（協議）」及び「千葉県水産振興審議会海面利用調整部会推奨ルールについて（協議）」を審議し、全員賛成で議題は可決された旨の報告があった。また、平成27年1月26日に、「東京湾横断道路木更津人工島「海ほたる」周辺海域における水産動植物の採捕及び遊漁船業の禁止に係る一都二県連合海区漁業調整委員会指示第12号の発動について」を審議し、全員賛成で議題は可決された旨の報告があった。

議題4）漁業就業対策について

議長）県の説明に対し、委員からの質問・意見を求めた。

関委員) 女性の就業者数が減少しているのは、女性漁業者は、荷揚げや魚食普及活動などの陸上作業が主なため、統計に表れていないと考えられる。

また、最近浜で聞くようになったのは、漁家経営の維持のため、漁家の女性が収入の不安定な漁業ではなく、それ以外の職業に就くことが多くなったという状況である。これは、漁業が廃業になったときの逃げ道を作るという傾向であり、センサスの結果と相関があると感じる。

平成26年の新規漁業就業者の年齢構成はどの様になっているか。

県) 10代12名、20代16名、30代15名、40代5名、50代3名、60代1名になる。

平島委員) 定置漁業の従業者は、実際20から30代の若い世代も多い状況である。また、社会保険などの就業体制を整えることにより、定置漁業の従業者の定着が進んだ例がある。しかし、安房地域内では他の組合の定置漁業に短期間で転職を繰り返すなど短期の就業者がおり、1就業者として数えておらず、統計に反映されていないと思う。

県) 転職するにしても1就業者として数えることが統計として適当である。

議長) 委員の皆さんから出された意見等を計画の参考にしていただきたい。

議題5) その他について

県水産課から今年度の水産業振興に係る主な取り組みを3点説明。

浜の活力再生プランについては、千葉県では漁業関係者と市町を中心に26年2月に千葉県地域水産業再生委員会を設立して県下4地区で6プランを作成し、水産庁に提出して年度内に承認見込みであること、県として当該プランを支援する事業を予定していることを説明した。

銚子漁港第一市場の整備については、地域の活性化を目的として新たな高度衛生管理型荷捌施設を整備し、将来的な衛生管理基準の厳しい諸外国への輸出への対応、魚価向上、産地間競争力やブランド力の強化とともに地元の味が体験できる施設による観光客の増加が見込まれることが期待される旨説明。

タイにおける千葉県水産物のPRイベントについては、千葉県と千葉県漁業協同組合連合会が平成27年2月6日から2月19日までの2週間、タイ王国バンコクにおいて、初めて千葉県水産物のPRを行い、大粒のアサリ、脂の乗ったサバ・サンマ、メヒカリが好評であった旨説明。

平島委員) ギンザケ養殖事業のPRにも取り組めないか。

県) 当該事業については、昨年度までは安定生産技術を研究側からサポートした。今年度は事業3年目となり、順調に生産されているところから、今後はブランド化の支援事業等で応援したい。

議長) 全体を通して、委員からの質問・意見を求めた。

関委員) 今後漁業者が一度に多数辞めていくことが予想されている中、潜在的に漁業を希望する者はいるので、新規参入者をいかに入れていくかが大切である。

(閉会)